

全日本合唱連盟の要望書を考える 文科省・コロナ感染症対策室に説明求める

全日本合唱連盟は文部科学省初等中等教育局及び内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室宛に、**新型コロナウイルス感染症対策分科会の提言及び文部科学大臣のコメントについて、合唱と管楽器演奏に対する誤解や曲解を招きかねない点があることを指摘する要望書(2月10日付)を提出しました。**詳しくは下記↓をご覧ください。

<https://jcanet.or.jp/news/corona-youbou-20220210.pdf>

要望書の主旨は、以下の5点です。

- ① 合唱と管楽器演奏が「**感染症対策を講じてもなお感染リスクが高い**」とはどのような実証的エビデンスにもとづくのか。
- ② 「**感染リスクの高い教育活動について、マニュアルでのレベルに捉われず基本的**に実施を控える」と「控える」ことを強制しているが、教育活動を維持・継続するのにどのような対策をすればよいのか具体策を明示してほしい。
- ③ 文科大臣コメント「**感染レベルに捉われず基本的**に控えて頂きたい」とは、合唱や管楽器演奏を行うなという誤ったメッセージを発信しており納得できない。
- ④ 合唱や管楽器演奏を控えるよう発信することは、単に**学校教育のみならずプロ・アマチュアを問わず演奏機会を否定する**ものであり、どのように認識しているのか。
- ⑤ これらの提言、事務連絡、大臣コメントは、**学校教育における文化芸術の機会を失わせ、否定する**ものだが、内閣はどのように考えているか。

これに対して、文科省と内閣府は果たしてどのような回答を出してくるのでしょうか。早急な改善を求めます。

気になるリスクコミュニケーションの不足

新型コロナウイルス感染症発生以来、もう2年が過ぎました。とくに効果的な感染対策もなく、感染状況の原因や増減について科学的根拠に基づいた説明はなされていません。そんな中で、国民にはやみ雲に多大な行動自粛が求められてきました。これはどうということでしょうか。あらためて別の観点から考えてみましょう。

最大の問題点は、感染対策についての**コミュニケーション不足**です。吉川肇子氏(慶應大学)は、リスクコミュニケーション^{きょくつうしん}の問題として、【1】メッセージの内容が曖昧である、【2】状況変化に応じてありうる**変更が明確にされていない**の2点を指摘しています。メッセージ不足の典型例として「3密」のうちの「**密集**」と「**密接**」の違いが未だに不明であることを上げていますので、確認してみます。

※リスクコミュニケーションとは、リスク分析過程で、リスク評価・管理者、消費者、事業者、研究者、その他関係者間で情報や意見を交換すること。意見交換会、新たな規制の設定などの際の意見聴取(パブリック・コメント)が双方向性のあるものだが、ホームページを通じた情報発信などの一方向的なものも広い意味でのリスクコミュニケーションに含まれる。またリスク評価の結果及びリスク管理の決定事項の説明を含む。

下の図は、首相官邸・厚労省・コロナ対策推進室が2022年に出したポスターの一部分です。(吉川氏は2021年版を引用していますが、2022年も内容は変わっていません。)

「**密接**」マスクなし× **大声**×、「**密集**」**大人数**× **近距離**×、「**密閉**」**換気が悪い**× **狭い所**×、です。ここで**密接**はマスクなしでの会話を、**密集**は**近距離**を問題としているように見えます。



そうであるならば、密接については「**会話に注意しよう**」と明確に表現する方が分かりやすいのに、それを無理に「密」に拘るので内容が曖昧になっています。これはあくまで一例です。

変更理由や変更箇所を説明しない

今回、全日本合唱連盟から要望書を出した背景には、リスクコミュニケーション不足があると指摘せざるをえません。

未知の感染症ですから、多くの経験や知見から次々と修正・訂正・変更があるのは当然ですし、そうでなければ困ります。にも係らず、政府はその変更をはっきりと説明してきたようには思えません。例えば、全日本合唱連盟ガイドラインでは「新旧対照表」を添付して改訂箇所を明示しています。それは、変更箇所を明確にし、その理由を理解してもらえるようにするために違いありません。そう考えると、首相官邸・厚労省・コロナ対策推進室がやっていることは、後で何か追及されることのないよう「曖昧」にしているのではないかと邪推されても仕方ありません。

烙印づけ「ラベル付け」の問題

吉川^{きよかわ}氏は、また負の烙印づけとして「**〇〇クラスター**」を上げています。とくに証拠がないにも関わらず感染リスクが高い場所として扱うことがありました。例えば、新宿の歓楽街が問題とされたことがありましたが、その根拠は十分には説明されていません。

全日本合唱連盟の要望書もこれと同様、明確な根拠なく「合唱や管楽器演奏」を危険視する対策の理不尽さを指摘したものです。問題と真摯に向き合い、曖昧にせず前向きな回答が出されることを期待します。